

# Br. Holdings Report



第24期 中間報告書

2025年4月1日～2025年9月30日

証券コード：1726



極東興和株式会社  
すさみ申本道路熊谷川第二橋上部工事  
(和歌山県東牟婁郡申本町)



株式会社 ビーアールホールディングス

# 株主の皆様へ To Our Shareholders

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
当社グループ第24期中半期(2025年4月1日から2025年9月30日まで)を終了しましたので、その事業活動の概況をご報告させていただきます。

代表取締役社長

藤田 公康



## 当社グループの 第24期中間連結会計期間の業績

当社グループの第24期中間連結会計期間の売上高は18,177百万円(前年同期比9.0%減)、経常利益は368百万円(前年同期比40.3%減)で推移しており、親会社株主に帰属する中間純利益は238百万円(前年同期比34.6%減)となりました。

剰余金の配当につきましては、中間配当は期首計画の通り1株当たり8.0円とさせていただきます。また期末配当は、1株当たり8.0円を予定しております。

さて、当社は「インフラ整備を通じて社会に貢献し持続的に成長する企業グループ」を目指し長期ビジョン「Br.VISION2030」の実現に向けた各種施策を推進しております。頻発する自然災害や気候変動への対応が社会全体の喫緊の課題となるなか、防災・減災および国土強靱化の重要性が改めて認識され、建設業に寄せられる期待は一段と高まっています。当社グループは、社会インフラの整備・維持を担う企業として、こうした社会的要請に的確に応えるべく、昨年度策定した中期経営計画(2024-2027)に基づき、持続的な成長の実現を目指しています。

## すべての社員に活躍の機会を

物価高や人手不足、さらには工事の大規模化・長期化・高難度化といった事業環境の変

化に対応していくためには、持続的成長を支える組織基盤の強化が不可欠です。当社グループでは「すべての社員に活躍の機会を」を中期経営計画の人材戦略の中核に位置づけ、社員の挑戦の促進と公平感の向上を目的として、今年度より新人事制度を導入しました。これは社員の育成および能力・技術を正当に評価する仕組みであり、連動して若手の抜擢人事を可能にします。また、女性の活躍推進や優秀な海外人材登用といった施策も進めています。変化を恐れず、未経験領域にも挑戦できる多様な人材が力を発揮できる組織づくりを進め、柔軟かつ強靱な企業体制の構築を目指してまいります。

## 学びと実践をつなぐ成長基盤

Br.Institute of Technology構想のもと、全社員を対象としたあらゆる分野におけるレベルアップを目的として2024年に社内アカデミーを創設し、独自のeラーニングシステムによる学習環境を整えました。2025年9月にはグループ会社である極東興和(株)代表取締役社長が博士号を取得するなど、経営者自身が技術を探求し、学術的知見と実務の融合による技術革新を追求しております。教育・研究・事業活動をつなげて、次代を担う人材育成と未経験領域への挑戦を加速させてまいります。

## 株主とともに歩む仕組みづくり

当社の株主還元の方針は安定配当を最優先

としており、継続性を重視したうえで、業績の拡大に応じて段階的に株主還元を高めていく方針です。

株価対策においては、ROEやPBRの改善などを念頭に資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組みを実施いたします。

また、当社グループは持株会加入社員を対象に、譲渡制限付株式インセンティブ制度(RS)を導入しました。これは、福利厚生の充実にとどまらず、社員一人ひとりが企業価値向上に主体的に関わる意識を高めることを目的としています。株主の皆様と価値を共有しながら、会社の成長と社員の自己実現を結びつけ、成果を共に分かち合うことで、より強固な信頼と一体感のある企業文化を育んでまいります。

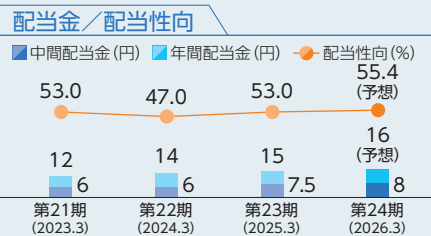
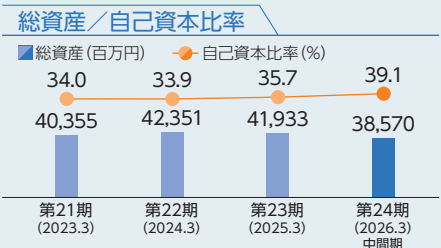
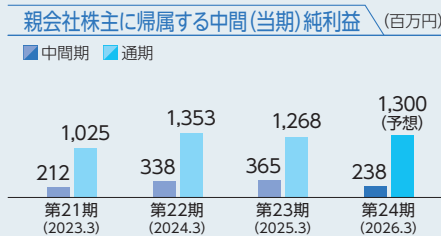
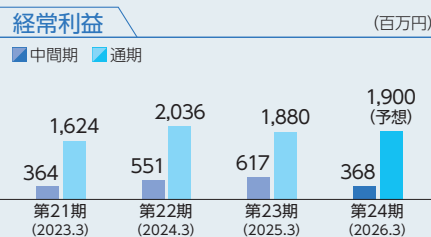
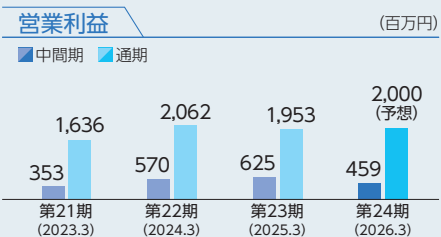
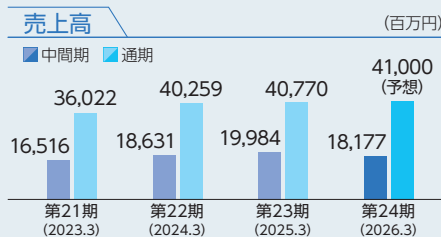
## 持続的成長と企業価値向上へ

当社グループは、これからも社会インフラの発展を支える技術と信頼のリーディングカンパニーであり続けることを目指しています。変化の時代においても、株主の皆様とともに「Br.VISION2030」の実現に向け持続的成長と企業価値の向上を実現してまいります。

今後も、株主の皆様のご期待にお応えできるよう邁進してまいりますので、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年11月

## 連結財務ハイライト





## 1

### 熊谷川第二橋 (和歌山県東牟婁郡串本町) 極東興和株式会社

本工事は、たび重なる豪雨や土砂災害により通行規制が頻発していた国道42号の安全性や利便性を高めるため、「すさみ串本道路」の一部として整備された熊谷川第二橋の上部工工事です。

すさみ南IC～和深IC間に位置し、地域の防災力向上を目的としています。

厳しい地形条件のもと、精密な施工が求められた現場では、最適な工法選定と綿密な品質管理を行い、高精度な施工を実現しました。

この区間の開通により、異常気象時の通行規制緩和や、災害・救急時の迅速な対応が可能となり、地域の安心・安全な交通ネットワークの確立に大きく貢献する橋となります。



## 2

### 早野高架橋 (岐阜県本巣市) 極東興和株式会社

本工事は、愛知・岐阜・三重の三県を環状に結ぶ「東海環状自動車道」のうち、洪水や豪雨時に通行が途絶しやすい地域に位置する早野高架橋の上部工工事です。

安全で途切れない交通を確保し、地域の防災力を高めることを目的に実施されました。

施工中は、高架下の道路交通を確保しながら、安全を最優先に作業を進めました。橋りょう上部工としては初めて、本来仮橋として使用することの多い仮設桁を支保工(コンクリート打設時の支え)として活用する新工法を採用し、効率的で安全な施工を実現しています。

2025年8月の開通により、地域交通の円滑化と災害時の通行確保が実現し、暮らしと物流の安心を支える道路インフラとなりました。



※橋りょう上部工では初となるプレガーダーを大型特殊支保工として採用

## 3

### 清武川橋 (宮崎県宮崎市大字富吉) 極東興和株式会社

本工事は、東九州自動車道の宮崎西IC～清武IC間における4車線化事業の一環として行われた、清武川橋の上部工工事です。交通の円滑化と安全性の向上を目的としています。

施工期間中には、地元大学や高専の学生、地域住民などを対象に約20回の現場見学会を開催しました。参加者には、模型を用いた施工工法の説明や現場内の見学を通じて、建設業の魅力や社会的意義を実感していただきました。

この取り組みは、地域との交流を深めるとともに、次世代の人材育成にもつながる意義ある活動となりました。



## 4

### 葛川溢越橋 (埼玉県坂戸市) 極東興和株式会社

本工事は、老朽化した道路橋脚の耐震性能を向上させることを目的とした補強工事です。

対象橋脚は河川内に位置し、水流や狭い作業空間など、厳しい条件下での工法選定で、当社の「高耐力マイクロパイル工法」が、小型機械で施工可能かつ硬質地盤にも対応できることから採用されました。この工法は、玉石層や岩盤など多様な地盤条件でも安定した施工ができる点で高く評価されています。

また、仮設構造物や作業動線を綿密に計画し、安全で効率的な作業環境を確保しました。老朽化インフラの補修需要が高まる中で、当社の技術力が安全・安心な社会インフラを支えることを改めて示した現場です。



## 会社概要

(2025年9月30日現在)

|       |   |
|-------|---|
| 商号    | 株式会社 ビーアールホールディングス<br>Br.Holdings Corporation |
| 設立    | 2002年9月27日                                    |
| 本社所在地 | 広島市東区光町二丁目6番31号                               |
| 電話    | 082-261-2860(代表)                              |
| 資本金   | 4,813,847,000円                                |
| 決算期   | 3月31日   |
| 従業員数  | 10名(連結656名)                                   |

## 代表者及び役員

(2025年9月30日現在)

|               |           |
|---------------|-----------|
| 代表取締役社長       | 藤田 公 康    |
| 取締役           | 石 井 一 生   |
| 取締役           | 山 根 隆 志   |
| 取締役           | ト 部 稷     |
| 取締役           | 末 竹 一 春   |
| 取締役・常勤監査等委員   | 天 津 武 史   |
| 取締役・監査等委員(社外) | 佐 上 芳 春   |
| 取締役・監査等委員(社外) | 三 浦 房 紀   |
| 取締役・監査等委員(社外) | 野 曾 原 悦 子 |

## 株式の状況

(2025年9月30日現在)

|          |              |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 120,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 45,795,000株  |
| 株 主 数    | 44,952名      |

### 大株主(上位10名)

| 株主名                 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---------------------|---------|---------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社  | 5,133   | 11.33   |
| トウショウアセットマネジメント株式会社 | 4,040   | 8.92    |
| 藤田公康                | 1,589   | 3.51    |
| ビーアールグループ社員持株会      | 1,060   | 2.34    |
| 広成建設株式会社            | 988     | 2.18    |
| ビーアールグループ取引先持株会広島支部 | 979     | 2.16    |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口)  | 812     | 1.79    |
| 株式会社三菱UFJ銀行         | 800     | 1.76    |
| ビーアールグループ取引先持株会大阪支部 | 729     | 1.61    |
| 藤田衛成                | 670     | 1.47    |

(注)持株比率は自己株式(522千株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

|                            |               |
|----------------------------|---------------|
| 事業年度                       | 4月1日～翌年3月31日  |
| 期末配当金<br>受領株主確定日           | 3月31日         |
| 中間配当金<br>受領株主確定日           | 9月30日         |
| 定時株主総会                     | 毎年6月          |
| 株主名簿管理人<br>特別口座の<br>口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行業部  
〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
TEL 0120-094-777(通話料無料)

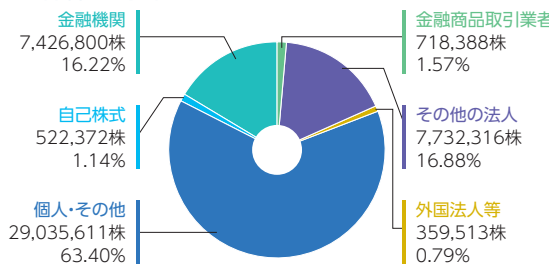
上場証券取引所 東京証券取引所(プライム市場)

電子公告により行う。  
当社ホームページ(<https://www.brhd.co.jp/ja/ir/announce.html>)にて掲載。  
(ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

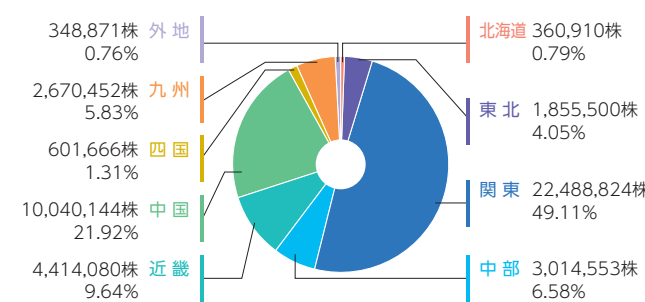
## 株式分布状況

(2025年9月30日現在)

### [所有者別株式分布状況]



### [地域別株式分布状況]



## ● グループの概況 (2025年9月30日現在)

### 極東興和株式会社

本社所在地/広島市  
事業内容/PC構造物の設計・施工  
PC及びRC製品の設計・製造・販売等  
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

### 東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市  
事業内容/PC構造物の設計・施工  
PC及びRC製品の設計・製造・販売等  
コンクリート構造物の診断・補修・補強等



### キョクトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市  
事業内容/PC製品及びコンクリート二次製品の設計・製造・販売・施工等

### ケイ・エヌ情報システム株式会社

本社所在地/広島市  
事業内容/ソフトウェアの設計・開発及び販売等

### 豊工業株式会社

本社所在地/大分市  
事業内容/PC及びコンクリート二次製品の製造・販売等

**株式会社 ビーアールホールディングス**  
Br.Holdings

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861  
ホームページ <https://www.brhd.co.jp/> (IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。)

